



舞鶴医療センター便り

高齢者のうつ病

◆ うつ病とは？

- ・ うつ病は、抑うつ気分、興味または喜びの喪失、易疲労感、集中力低下、自己評価の低下、罪責感、悲観、不眠、食欲低下、自殺念慮などの抑うつ症状が 2 週間以上持続する病気になります。
- ・ うつ病はどの年代にも起こりうる病気ですが、高齢者においてもよく認められます。高齢者のうつ病は若年者のうつ病と違いがあるので、今回は高齢者うつ病の特徴を説明します。

◆ 高齢者うつ病の症状と特徴

- ・ 高齢者のうつ病では、自殺念慮、悲観、精神運動激越(落ち着きのなさ)、心気症(重篤な病気にかかっているのではないかという思い込み)、身体症状、精神病症状(幻覚、妄想)の頻度が高いと言われています。
- ・ 自殺に至る場合や、食事を食べなくなる場合など命に関わることも多いため注意が必要です。
- ・ 抑うつ症状が目立たず、便秘、口喝、動悸などの身体症状の訴えが目立つ場合があります、うつ病のように見えず治療が遅れる場合もあります。

◆ 高齢者のうつ病と間違われやすい病気

1. 認知症

- ・ 認知症や認知症にいたる前段階である軽度認知障害(MCI)ではしばしば抑うつ症状を認め、うつ病との鑑別が困難になります。
- ・ 高齢者になって初めて抑うつ症状を認めた場合、抑うつ症状だけではうつ病なのか認知症なのかを鑑別するのは困難なことがあります。
- ・ 認知症の可能性も考えて認知機能検査や頭部画像検査をする必要があります。

2. せん妄

- ・ せん妄とは意識と注意の障害であり、発症は通常急激で症状が変動しやすく、夜間に発症することが多いです。
- ・ 興奮などが目立つ過活動型せん妄と活動量低下などが目立つ低活動型せん妄があり、低活動型せん妄はうつ病のように見えることもあります。

3. 器質性精神障害

- ・ 器質性精神障害とは脳に何らかの病気があり、それにより精神症状が出現する病気です。

- ・ 代表的な原因としては脳梗塞や脳出血などの血管病変があります。
 - ・ 脳の血管病変によって生じる抑うつ症状を血管性うつ病と言うこともあります。血管性うつ病の場合には薬の効きが悪くなるという報告もあります。
4. 双極性障害
- ・ 双極性障害は抑うつ症状を認める時期と気分高揚、活動性の亢進、多弁、睡眠欲求の減少などの躁症状を認める時期を繰り返す病気になります。
 - ・ 双極性障害の抑うつ症状とうつ病の抑うつ症状を鑑別するのは難しいところがあります。
 - ・ 双極性障害の抑うつ症状に対して抗うつ薬による治療を行うと躁状態になる可能性もあり注意が必要になります。

◆ 高齢者のうつ病の治療

- ・ うつ病を認めると認知症になる可能性が高くなると言われています。
- ・ うつ病を治療することは、本人の苦痛や生活の質の改善につながるだけでなく、認知症の予防にもつながるため、しっかりと治療することが必要になります。
- ・ 高齢者のうつ病では再発率も高いため、一度症状が改善したからといって治療をやめてしまうと、再発する可能性が高いため、継続した治療が必要になることが多いです。
- ・ 代表的な治療としては以下のものがあります。
 1. 薬物療法
抗うつ薬など
 2. 非薬物療法
認知行動療法、問題解決療法、回想療法など
 3. 修正型電気けいれん療法(mECT)
 4. 反復経頭蓋磁気刺激療法(rTMS)
- ・ 当院では 1,2,3 の治療を行っております。
- ・ 薬物療法は効果がでるのに数ヶ月かかることもあり、即効性を期待する場合などは mECT を行っております。
- ・ mECT は全身麻酔下で行う治療であり、事前に検査などを行い、適応のある患者にのみ施行することができます。
- ・ 4 は当院では行えませんが、うつ病に対する保険適用はあり、施行している施設もあります。

(文責:精神科 松岡 照之)

発行元:舞鶴医療センター 広報委員会